

厳しい冬の寒さもようやく衰え始め、自然豊かなこの武蔵大学のキャンパスでも徐々に春の到来を感じられるようになりました。本日は私たち卒業生のために、このような素晴らしい卒業式を挙行していただき、誠にありがとうございます。ご臨席を賜りました山崎学長をはじめ、諸先生方並びにご来賓の皆様方に、卒業生一同を代表して厚く御礼申し上げます。

私たちが入学して間もなく四年が経ちます。いざ卒業するとなると、新しい生活への期待と同時に大学生活への別れに寂しさを感じます。今この場で四年間を振り返ってみますと、本当に様々な出来事が思い起こされます。

私は人文学部ヨーロッパ文化学科に所属し、第一外国語としてドイツ語を学びながら、ドイツと日本の文化の比較を専門に研究して参りました。また、二年次には留学という初めての挑戦を決意し、ミュンヘンに一ヶ月間ホームステイをしながら語学学校に通いました。そこでは異国の人と現地の言葉で少しずつ会話が通じた喜びを感じると共に、言語習得の難しさを改めて強く感じました。三年次にはドイツ語で行われるゼミナールに所属し、「ドイツと日本の文化」というテーマで、プレゼンテーションやディスカッションに取り組みました。

特に語学に力を入れ、ドイツ語漬けになった大学生活でしたが、その道のりは決して容易なものではありませんでした。大学から初めて新しい言語に挑戦することは想像以上に難しく、自分の力不足に悩み苦しみ、挫折そうになることも多々ありました。しかし、そのたび背中を押してくれたのは友人と指導に当たって下さった先生方でした。共に勉強に励んでいる仲間や親身にサポートして下さいました先生方の言葉は、私自身を奮い立たせ大きく成長させてくれました。それはきっと、この少人数制でアットホームな雰囲気のあるキャンパスという恵まれた環境、「武蔵大学」だったからこそ実現できたものだと思います。

このことを実感してきたのは私だけではありません。ここにいる皆も大学生活の中で、それぞれの悩みに直面し、そのつど武蔵大学という環境で仲間や周囲の人に助けられながら、日々精進し成長してきたことでしょう。

さて本日卒業式を迎え、そんな共に過ごしてきた仲間とも、別れを告げねばならない日がやってきました。私たちは四月から別々の道を歩むこととなります。社会人として働く人もいれば、引き続き学問を追究する人と、進む道は様々です。どのような進路を選択するにせよ、今まで以上に多くの困難にぶつかることでしょう。それは理想と現実のギャップであったり、答えの出ない問題であったり、時には挫折することもあるかもしれません。しかしそのような時でも、この武蔵大学での経験と共に歩んできた仲間たちや先生方のことを胸に、目標に向かって努力し日々成長して参ります。

最後になりましたが、四年間多くのご指導をいただきました諸先生方、有意義な学生生活を提供して下さいました職員の皆様、ご多忙のところご臨席下さいました方々、互いに学び励まし合ってきた同級生ならびに先輩後輩、そして最後に長きに渡り傍で支え続けてくれていた家族に、あらためて心より感謝申し上げます。今後も変わらずご指導ください

ますよう皆様にお願ひ申し上げますと同時に、皆様方のご健康とご多幸、そして武蔵大学の更なる発展を祈念いたし
まして答辞とさせていただきます。

平成二十九年三月二十二日

武蔵大学 第六十五回卒業生代表
人文学部ヨーロッパ文化学科 幸本彩希